

五色ヶ原の森

五色ヶ原の森は乗鞍岳の北西斜面 3,000 ヘクタールを覆う豊かな生態系です。標高の低いところでは、野性植物や樹木にはブナやクルミ、カシ属といった落葉樹が含まれ、標高の高いところでは、モミやツガ属などを含むさまざまな針葉樹が生育しています。ツツジ、モクレン、およびトリカブト属などの野生の花々はピンクや紫で風景を彩ります。これらの植物の多くは他の場所では脅威にさらされていますが、人間が及ぼす影響を制限する厳しい政策のおかげで、ここでは繁栄しています。

この地域とその野生生物を維持また保護するため、登山道はもちろん森に至る道路も舗装されていません。環境のかく乱を最小限に抑えるため、一日のツアー数も制限されています。この森林の中にある五つの小さな山小屋には近隣の川や溪流を汚染しないようバイオトイレの設備が整えられています。さらに、ゴミは公園を出る際にすべて持ち帰らなければなりません。

この森には 10 人以下のグループのガイドツアーでのみ入山することができます。ツアーは三つの異なるコースに分かれており、登山者同士が出会わないよう配置されています。6.7 キロメートルのカモシカコースは、四つの大きな滝を経つつ森を北から南へと横切り、一方シラビソコースは、山の池や溪流の数々をめぐるように進み、段々になった滝へと至ります。ゴスワラコースはほぼ完全に手つかずのまま残されている森の区域を通り、標高 1,920 メートルの地点で終わります。それぞれのコースは踏破するのに八時間かかるため、ツアーは早朝に出発しますが、半日のツアーも用意されています。

この森の大部分は高山市が所有していますが、関連機関からの大きな支援によって維持されています。かつて 100 年ほど前（1892-1918 頃）まで、この地域では銅や銀の採掘が盛んに行われました。全盛期（1907 年頃）は、この山深い場所に鉱夫やその家族など 3000 人ものが暮らす街があったと言われています。戦後に鉱山が閉山された後、高山市が土地を購入し、この森を乱開発から守りました。そして、五色ヶ原の森の豊かな自然環境を持続的に活用するという機運の高まりを受けて、ハイキングコースが整備され、2004 年に一般向けのツアーが開始されました。